

平成24年7月23日

国土交通大臣 羽田雄一郎 様

美しい錦川を未来へ手渡す会

代表 吉村健次

水源開発問題全国連絡会

共同代表 嶋津暉之

共同代表 遠藤保男

### 平瀬ダムに関して厳正な判断を求める要請書

平素より国民のためにご尽力いただき、感謝いたします。

去る7月11日に開かれた「今後の治水のあり方に関する有識者会議」は、山口県の平瀬ダムの検証報告を追認し、平瀬ダムの継続が妥当だという意見をまとめました。しかし、山口県の平瀬ダムの検証報告はダム計画の推進を前提とした、きわめて恣意的なものです。そのように客観性を欠いた報告をそのまま受け入れた有識者会議は、単なる追認機関に過ぎず、その存在意義を疑わざるを得ません。ダムによらない治水のあり方を追求するという有識者会議の本来の設置目的は消えてしまいました。

平瀬ダムは有識者会議の審議が終わりましたので、近々、国土交通大臣の対応方針が決定されることとなっています。しかし、次に述べるように、平瀬ダムは治水利水の両面で必要性が希薄であり、且つ、錦川の環境に多大な影響を与えるものですので、有識者会議の意見によることなく、国土交通大臣として平瀬ダムに関して厳正な判断をされ、検証のやり直しを指示されることを要請いたします。

1 平瀬ダムの完成予定時期は平成26年度でしたが、平成33年度まで延期されることになりました。延期の理由は財政事情ということですから、財政事情が好転しなければ、さらに延期されるに違いありません。平瀬ダムが流域住民の安全を守り、飲料水を確保するための喫緊の対策であるならば、安易に延期することはありません。たやすく延期されるところに、平瀬ダム事業の必要性が希薄であることが如実に示されています。

今、日本の各都市の水道用水は人口の減少と節水型機器の普及によって減少傾向になっており、今後もその傾向が続いていきます。平瀬ダムの利水予定者である岩国市も例外ではありません。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、岩国市の人口はかなりスピードで減少し、平成47年には現状の73%になります。したがって、ダムの

完成時期の延長によって、岩国市の水道にとって平瀬ダムがますます無用の存在になることは確実です。

2 ダムに依存する治水対策はギャンブル的です。ダム集水域に計画通りの雨が降れば、所定の効果が得られるかもしれませんが、洪水時の雨の降り方は様々であり、ダム集水域以外のところに集中的に雨が降れば、ダムの治水効果を期待することができません。平瀬ダムはまさしくそうであって、たとえば、平成21年7月の梅雨前線豪雨において中下流部で氾濫の危険性を生じさせたのは、錦川の平瀬ダム予定地より下流で合流する宇佐川や本郷川などの支川からの流入でした、この洪水で仮に平瀬ダムがあっても、その上流域の雨量は少なく、平瀬ダムの治水効果はほとんどありませんでした。

このように、ダムというものはその上流域に所定の雨が降らなければ効果がないのであって、ダムに依存する治水対策を進めることは危険です。治水対策の王道は河川改修、すなわち、堤防の嵩上げ、強化、河床の掘削であり、流域のどこに雨が降っても確実に対応できる洪水対策です。錦川においても、雨の降り方によっては効果がない平瀬ダムの建設をやめて、その予算を河川改修に回すべきです。

3 錦川に沿って、錦川清流線という名の第三セクターの一車両だけの鉄道が走っています。魚の絵などが描かれたユニークな車両です。錦川清流線という名のとおり、錦川は素晴らしい清流で、一級水系で日本一の清流になった尻別川をも凌ぐとされています。この類い稀な清流を主に維持しているのが、平瀬ダム予定地の直上流で流入する木谷川で、その流域はブナの原生林で覆われています。既設の菅野ダム等を経由して流れてきた本流とこの木谷川の合流点を見ると、ダム経由の水がどんより濁っているのに対して、木谷川の水の透明さは際立っています。その合流点直下に平瀬ダムを建設すれば、水質が悪化して、錦川の素晴らしい清流が永遠に失われるに違いありません。

また、錦川の水質が悪化すれば、「錦帯橋」の景観も悪くなり、岩国市民の期待が高い「世界遺産登録」が難しくなってしまいます。錦川の素晴らしい清流を守るために、平瀬ダムを建設してはなりません。

連絡先 美しい錦川を未来へ手渡す会

代表 吉村健次

0827-76-0303

Mail [neonishiki@mail.goo.ne.jp](mailto:neonishiki@mail.goo.ne.jp)